

平成 24 年 度 学 校 経 営 計 画

広島市立中島小学校

<p>学校教育目標</p> <p>心豊かな「なかじまっ子」の育成      なかよく あかるとい子      かんがえ くふうする子      じょうぶで ねばりづよい子      まじめで よくはたらく子</p>
---

<p>目指す学校像(ビジョン)</p> <p>(1) 児童が、楽しくのびのびと学ぶことができる学校                  (2) 児童が自らよく考え、自ら判断し行動する学校                  (3) 自尊感情を大切にし、命を大切にす学校</p>	<p>(4) 児童、教職員が一体となり、環境整備、美化活動に取り組む学校                  (5) 規範性、感性、体力、コミュニケーション能力を育てる学校                  (6) 教職員自らを開き、相互信頼と協働態勢のある学校</p>
--	--

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準			
				努力指標	成果指標		
学力の向上	児童の自己肯定感を高める指導方法・評価方法の工夫・改善を図り、分かる授業を創造することによって、確かな学力を育てる。	児童が成就感や自己肯定感をもつかかわり合う場を大切に授業を行う。	授業の中で、児童が成就感や自己肯定感をもてるような手立てを工夫する。 ・聞き方や話し方、ペア・グループ学習、異学年交流など ・評価の工夫(ほめ言葉、ノート指導、家庭学習指導など)	4	授業の中で、肯定的な評価をする場を毎時間設定した。	4	授業の中で、自分の力が付いたり認められたりしたと思った児童が80%以上であった。
				3	授業の中で、肯定的な評価をする場を1日3時間以上設定した。	3	授業の中で、自分の力が付いたり認められたりしたと思った児童が60～80%であった。
				2	授業の中で、肯定的な評価をする場を1日2時間設定した。	2	授業の中で、自分の力が付いたり認められたりしたと思った児童が40～60%以上であった。
				1	授業の中で、肯定的な評価をする場を1日1時間定した。	1	授業の中で、自分の力が付いたり認められたりしたと思った児童が40%未満であった。
豊かな人間性の育成	望ましい生活習慣、正しい判断力、思いやりの心などの豊かな人間性の育成に努める。	道徳における指導者の授業力向上を目指し、道徳の時間を充実させる。 【設定理由】 近年の実態及び新教育課程の実施のための重点課題として、道徳教育の充実を重点目標とする。	主として自分自身に関することに焦点を当て、協同学習を取り入れて、児童を「ねらいとする道徳的価値の自覚」へと深める授業実践を行う。	4	発問や助言を工夫して、児童の感じ方や考え方を深める授業を年4回以上実施した。	4	主人公の行為や心情を考え、自分の身に置き換えて考えることができた児童が80%以上であった。
				3	発問や助言を工夫して、児童の感じ方や考え方を深める授業を年3回実施した。	3	主人公の行為や心情を考え、自分の身に置き換えて考えることができた児童が60%以上80%未満であった。
				2	発問や助言を工夫して、児童の感じ方や考え方を深める授業を年2回実施した。	2	主人公の行為や心情を考え、自分の身に置き換えて考えることができた児童が40%以上60%未満であった。
				1	発問や助言を工夫して、児童の感じ方や考え方を深める授業を年1回以下実施した。	1	主人公の行為や心情を考え、自分の身に置き換えて考えることができた児童が40%未満であった。
	学校生活のきまりを守ることを通して、基本的な生活習慣を育てる。	自分の身の回りを整えることができるように、教職員全員で意識統一して指導する。 ・名札 ・靴のはき方 ・服装 など	自分の身の回りを整えることについて、十分に指導し、意識を高めた。	4	自分の身の回りを整えることについて、十分に指導し、意識を高めた。	4	身の回りを整えることができるようになった児童が80%以上であった。
				3	自分の身の回りを整えることについて指導し、意識付けをした。	3	身の回りを整えることができるようになった児童が60%以上80%未満であった。
				2	自分の身の回りを整えることについて指導し、ある程度意識付けた。	2	身の回りを整えることができるようになった児童が40%以上60%未満であった。
				1	自分の身の回りを整えることについて、あまり指導せず、意識も低かった。	1	身の回りを整えることができるようになった児童が40%未満であった。
健康・安全教育の推進	安全教育、健康教育、体力づくりの推進を図る。	日常の学校生活における体力づくりの習慣化を図るとともに、協力・寛容の気持ちを育てる。	外遊びを習慣づけることにより体力の向上を目指すとともに外遊びを通して学級・学年・異学年間の交流を深める。	4	外遊びを月に4回以上実施した。	4	週に4回以上外遊びに参加した。
				3	外遊びを月に3回実施した。	3	週に3回外遊びに参加した。
				2	外遊びを月に2回実施した。	2	週に2回外遊びに参加した。
				1	外遊びを月に1回実施した。	1	週に1回外遊びに参加した。
よるまちなちの教育の推進	地域に開かれた信頼される学校づくりに努め、地域の方と関わり合う教育活動を推進する。	地域・保護者への情報発信を広げ、その内容を充実し、開かれた学校づくりに努める。	学校・学年だよりやホームページ・携帯メール、児童のポスター等を通して、行事を地域・保護者に知らせ、参加しやすい環境を作る。(朝会・集会・児童会活動など)	4	学校・学年だよりやホームページ・携帯メール、児童のポスター等で行事を年10回以上知らせ参加を呼びかけた。	4	学校の様子が伝わったと感じた保護者が、80%以上であった。
				3	学校・学年だよりやホームページ・携帯メール、児童のポスター等で行事を年7～9回知らせ参加を呼びかけた。	3	学校の様子が伝わったと感じた保護者が、60%以上80%未満であった。
				2	学校・学年だよりやホームページ・携帯メール、児童のポスター等で行事を年4～6回知らせ参加を呼びかけた。	2	学校の様子が伝わったと感じた保護者が、40%以上60%未満であった。
				1	学校・学年だよりやホームページ・携帯メール、児童のポスター等で行事を年1～3回知らせ参加を呼びかけた。	1	学校の様子が伝わったと感じた保護者が、40%未満であった。